

毎年、部会組織や各生産者で確保していた雇用者の確保は難しい状況にあり、特に9月から本格化する共同選果場での労働力確保の目処は立っていない状況にある。この状況を解決するために、地域内の生産者組織とJA、行政などの関係機関が連携し、生産現場・共同選果場の雇用労力の状況や作業内容を整理することで、労働力を確保する方法や働きやすい作業体系などの検討を行い、今年度雇用された労働者が次年度以降も継続して雇用できる体制を構築することを検討する。

事業実施主体構成員

J Aならけん西吉野柿部会（部会員 239名）

協力機関・連携先等

奈良県南部農林振興事務所農業振興課・奈良県農業研究開発センター・
五條市産業振興課・奈良県農業協同組合 営農販売課

設定した成果目標・目標に対する進捗状況

①産地の労働力需要に対する充足率：

▼設定した成果目標

部会所属生産者における労働力充足率
・事業開始時の充足率80%（58人/72人）⇒目標充足率85%

▼R7.2末現在の進捗状況※概算

・本年事業終了時の充足率80%（58人/72人）

令和6年度取組み内容

今年度の取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等）

●生産者へのアンケート（30経営体が回答） 以前に実施済

- ・労働力の不足状況（時期・人数・労働力確保についてなど）
- ・家族労働力の状況（労働日数・労働時間・作業内容など）

常時雇用・季節雇用をしているが、21経営体が労働力が不足状況だと回答。

不足時期 4・5月 摘蕾作業

9～11月 収穫作業 … 経営主・配偶者・父母・子とも1年のうち10月の労働時間が一番多い。（経営主で労働日数は28.6日）

イ 産地内での労働力確保・育成

ハローワークによる求人

農業系求人サイトへの掲載

求人チラシの作成を行い、12万部を新聞折込。

求人数 約60人、応募数 約70人、成立数 10人

成立数の10人はシフト（4勤1休）で勤務する労務者。

応募数の中にはアルバイト希望も含まれる。成立数には含まれないが約50人はアルバイト登録している。

地元の西吉野農業高校生のアルバイト登録（アルバイトはシフトには入らず、夜間や休日のみの勤務、また欠員が出た際の補充）

今年度の取組み内容

ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

＜他産地と連携した労働力確保＞

ア 募集する労働者の居住地（出発地）：北海道・長野県・沖縄県ほか

イ 労働場所（目的地）：部会所属の柿農家、柿共同選果場など

ウ 宿泊場所：柿部会が所有する寮、一軒家及びハイツを賃貸

エ 募集条件：柿の摘果・摘蕾、柿の選別・箱詰め、9月上旬～12月上旬、4勤1休、1日8時間程度

収穫期（9月～12月上旬）に産地内労働力で不足する分を産地外労働力として77人受入れ（うち特定技能外国人41人）

・北海道（JAふらの）から2人、リピーターの17人（うち9人は春の摘蕾にも参加）を受入れ

・北海道の連携ＪＡから人材派遣会社の紹介により、特定技能外国人の受入れ

エ 労働力等のマッチング及びデータベース化

行政・JAの兼業対象の拡大（実績なし）

・五條市役所職員の柿農家への従事

・JA職員の青壮年部への従事

オ 農業の「働き方改革」への取組

アンケート結果、地域外の雇用者が重視する点で回答が最も多かったのが「宿舍の環境」。

宿舍の環境＞給与＞作業内容＞雇用期間＞職場の環境・1日当たりの労働時間

満足した点で回答が最も多かったのが「宿舍の環境」

宿舍の環境＞職場の雰囲気＞雇用期間＞地域の環境・1日当たりの労働時間＞休日数

★職場の環境・雰囲気向上のため、休憩所の設置などを行った。

★派遣会社の連携拡大に伴い、派遣先責任者講習を受講し派遣労働者受入体制の充実を図った。

本事業取組みにおける成果項目

西吉野柿部会ホームページから紹介動画を視聴可能
⇒産地労働力に向けた情報発信



次年度以降の取組み内容

県内産地による労働力連携

西吉野の柿 × **小菊産地**

小菊産地においても、労働力不足が顕在化
小菊の繁忙期が7月～10月（特に盆・彼岸）

県内で情報共有
特定外国人労働者等についての情報交換
↓
県内での産地リレー

毎年、部会組織や各生産者で確保していた雇用者の確保は難しい状況にあり、特に 9 月から本格化する共同選果場での労働力確保の目処は立っていない状況にある。この状況を解決するために、地域内の生産者組織とJA、行政などの関係機関が連携し、生産現場・共同選果場の雇用労力の状況や作業内容を整理することで、労働力を確保する方法や働きやすい作業体系などの検討を行い、今年度雇用された労働者が次年度以降も継続して雇用できる体制を構築することを検討する。

事業実施主体構成員

J A ならけん西吉野柿部会・奈良県南部農林振興事務所農業振興課・奈良県農業研究開発センター・五條市産業振興課・奈良県農業協同組合営農販売課

実績値（目標値）

- ①部会所属生産者における労働力充足率：65％（80％）
- ②他産地・他産業との連携により雇用した労働者の人数：21人（30人）
産地内で新たに雇用した労働者の人数：32人（30人）

令和 5 年度取組み内容

今年度の取組み内容
ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等） ●生産者へのアンケート（30経営体が回答） ・労働力の不足状況（時期・人数・労働力確保についてなど） ・家族労働力の状況（労働日数・労働時間・作業内容など） 常時雇用・季節雇用をしているが、21経営体が労働力が不足状況だと回答。 不足時期 4・5月 摘蕾作業 9～11月 収穫作業 … 経営主・配偶者・父母・子とも1年のうち10月の労働時間が一番多い。（経営主で労働日数は28.6日） ●共同選果場の雇用労働者へのアンケート（地元雇用者28人・宿泊を伴う雇用者13人が回答） ・雇用労働者の属性（性別・年齢・通勤時間・職務経歴など） ・求職者ニーズ（希望する作業内容・仕事選びで重視する点・職場の満足度など） 地元雇用者は求人チラシからの応募が多いが、知人による紹介も多い。 通勤時間は平均30分であるが、一部には30分を超える雇用者もいる。 （30分を超えると人口の多い地域も含まれてくる） 宿泊を伴う雇用者は他産地（主に北海道）からのリレーが多いが、農業以外（漁業・サービス業・工場関係）、また就労期間が空いている雇用者も多い。 西吉野の後に農業関係にリレーする場合は愛媛県・和歌山県及び沖縄県がほとんど。

令和5年度取組み内容

今年度の取組み内容

イ 産地内での労働力確保・育成

求人広告の作成を行い、12万部を新聞折込。
求人数 約60人、応募数 約100人、成立数 32人
成立数の32人はシフト（4勤1休）で勤務する労働者。
応募数の中にはアルバイト希望も含まれる。成立数には含まれないが約70人はアルバイト登録している。
アルバイトはシフトには入らず、夜間や休日のみの勤務、また欠員が出た際の補充。

ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

<他産地と連携した労働力確保>

ア 募集する労働者の居住地（出発地）：北海道・長野県・沖縄県ほか

イ 労働場所（目的地）：部会所属の柿農家、柿共同選果場など

ウ 宿泊場所：柿部会が所有する寮、一軒家及びハイツを賃貸

エ 募集条件：柿の摘果・摘蕾、柿の選別・箱詰め、9月上旬～12月上旬、4勤1休、1日8時間程度

・秋の収穫期の労働力不足に対応するため、夏が農繁期である北海道・長野で雇用されている人材の受入れ。

北海道9名、長野県3名、群馬県1名の労働力の受入れができた。

北海道の連携JAから人材派遣会社の紹介により、北海道だけでなく長野県からの受入れも可能となった。

・春の摘蕾期（4～5月）の労働力不足に対応するため、冬が農繁期である沖縄で雇用されている人材の受入れに取組み中。

☆西吉野では労働力不足となるのが春・秋であり、周年雇用は困難であるが、夏・冬が農繁期である産地と連携することにより、労働者は産地をリレーし安定的な雇用につながり、産地にとっても労働者を産地リレーのサイクルを構築することにより労働力の定着につなげる。

<他産業と連携した労働力確保>

農産加工会社（農産物を梱包したり小分けしたりする加工）の従業員を6名受入れ。

今年度の取組み内容

エ 労働力等のマッチング及びデータベース化

求人サイトを従来の「農家のおしごとナビ」に加え「あぐりナビ」を追加。
JAならけんホームページ上の求人掲示板「農job」へ掲載
雇用者の情報を春の摘蕾期、秋の収穫期の求人に活用する。

オ 農業の「働き方改革」への取組

アンケートによる求職者ニーズ（希望する作業内容・仕事選びで重視する点・職場の満足度など）の調査

地元雇用者が重視する点	回答数	満足度
①職場の環境	20人	6人
②職場の雰囲気	17人	12人
③給料	16人	2人
④雇用期間	15人	8人
⑤1日当たりの労働時間	11人	3人
⑥人との交流	11人	8人

宿泊を伴う雇用者が重視する点	回答数	満足度
①宿舍の環境	11人	10人
②地域の環境	8人	9人
③職場の雰囲気	8人	9人
④職場の環境	7人	7人
⑤雇用期間	7人	10人

本事業取組みにおける成果項目



・求人動画の作成

求人サイトへアップすることにより、実際の従事内容を視聴してもらうことで応募のハードルを下げるとともに、求職者とのミスマッチを予防。

・研修動画の作成

雇用者の就業期間前に作業内容を事前に研修することで、就業開始時にスムーズに作業。

次年度以降の取組み内容

・アンケート結果の活用

特に地元雇用者において、重視する点と満足した点が乖離「職場の環境」の改善に向けた取り組みが必要

・連携産地の拡大

産地リレーのルートは多様
新たな産地との情報交換を行う

・異業種や大学生などとの連携

・1日農業バイトの検討